

広島県中小企業団体中央会 2014 年 7 月分情報連絡一覧表

(食料品)

●食料品

中国醤油醸造協同組合

7 月の出荷量は前月比 24.0%増加、前年同月比 2.2%増加、売上高は前月比 24.9%増加、前年同月比 3.1%増加となった。7 月は消費税増税の影響が少なくなり、出荷量及び売上高も増加した。

(木材・木製品)

●木材・木製品

福山木材協同組合

消費税増税後の駆け込み需要の影響が出てきている。しばらくは苦戦しそうである。

●木材・木製品

広島県木材協同組合連合会

平成 26 年 6 月の全国新設住宅着工数は、75,757 戸（前年同月比 9.5%減少）、利用関係別にみると、持家は 24,864 戸で前年同月 19.0%減少、分譲住宅は 19,415 戸で前年同月 11.9%減少、貸家は 31,058 戸で前年同月 1.8%増加となった。木造住宅着工数は、42,379 戸で前年同月 10.7%減少となった。

住宅着工の動向については、消費マインドの改善等もあり堅調に推移してきたが、足下では消費税率の引上げに伴う駆け込み需要の反動もあり、実数では前年同月より減少している。

今後の先行きは、雇用・所得環境の推移、東日本大震災からの復興状況、建設労働者の需給状況、住宅ローン金利の動向等から引き続き慎重に見極める必要がある。

広島県内の着工数は 1,287 戸で前年同月 11.1%の減少となった。その内訳としては、持家が 485 戸で前年同月 12.0%の減少で、貸家が 509 戸で前年同月 2.3%の減少、また分譲が 293 戸で前年同月 21.7%の減少となった。

(化学・ゴム)

●工業用ゴム製品

中国ゴム工業協同組合

消費税増税の影響で車の国内販売は減少しているが、輸出が好調で、国内生産台数は減少していないようである。ただ、住宅マーケットは昨年来からの消費税増税前の駆け込み需要の反動で減少している。また、公共投資による工事も人手不足により増加していない。

業績については、昨年とあまり変化はないように思えるが、原材料高や人手不足、電力不足等先行きに対する不安材料は多々ある。よって設備投資、正社員採用には慎重にならざるを得ない。

●プラスチック製品製造業

広島県プラスチック工業会

7 月の売上は全体的に横ばいであった。

自動車関連は、新車立ち上がりに伴い、全体的に操業率は上昇しており、売上微増の傾向にある。

原材料の値上げ傾向は収まった状況であるが、経営環境は厳しい。更なるコスト改善への取り組みが各社求められている。

(窯業・土石製品)

●窯業・土石製品

広島地区生コンクリート協同組合

出荷状況 (24 工場)

26 年 7 月 3,444 m³ (対前年比 8.6%減少)

26 年 6 月 3,402 m³

25 年 7 月 3,766 m³

(鉄鋼・金属製品)

●鉄鋼業

軋鉄鋼協同組合連合会

企業間により格差はあるが、物は流れている。地域の貸し倉庫も昨年と比べ、利用者が大幅に増え、8 割方埋まっているが、継続的な利用ではなく、短期で借りているようである。

(一般機器)

●一般機械器具

協同組合三菱広島協力会

広島県西部観音地区においては、コンプレッサー関係は高操業であるが、製鉄機械、タイヤ機械等は低操業である。従って、各社ともコンプレッサー関係の下請へと流れている。

広島県西部江波地区においては、航空機関係が高操業であるが、人材不足の状況にある。

●一般機械器具

広島県東部機械金属工業協同組合

7 月納期のものが来月に一部ずれ込んだことと、受注の一時的減少により、前月比 10%減少、前年同月比 3%増加となった。

(電気機器)

●電気機械器具

(電気) 広島県東部機械金属工業協同組合

人の集まりがよくない。特にパートタイマーの集まりが悪い。最低賃金が高すぎてコスト面で非常に圧迫感がある。大手は賃上げに動いているが、中小企業は大手ほど利益率が良くないため、苦しい。賃上げ気運で無理をしているところが大半なのではないだろうか。

(輸送用機器)

●輸送用機械器具 (造船)

(社) 中国小型船舶工業会

中小造船業については、大きな変化はない。

●輸送用機械器具（造船）

中国地区造船協議会

中手・大手の2,500総トン以上の平成26年7月分の建造許可は5隻157,700総トン(前月11隻、377,640総トン、前年同月8隻195,150総トン)であった。なお、5隻の内訳は、国内船の貨物船11,500総トン、輸出船の貨物船4隻146,200総トンである。

業況については、大きな変化はない。

●輸送用機械器具（造船関連団地）

呉鉄工業団地協同組合

原材料高騰に伴い、収益状況が悪化している。

●輸送用機械器具（自動車）

東友会協同組合

7月の国内自動車販売台数は全需が460千台、前年同月比2.5%減少と2ヶ月振りの前年割れとなった。登録車は前年比0.6%増加と4ヶ月振りの前年越えとなったが、逆に軽自動車は7.1%減少と13ヶ月振りの前年割れとなった。マツダ車は24.9%減少と4ヶ月連続で大幅な前年割れとなった。

アメリカの6月の全需は1,421千台で前年同月比1.2%の増加。マツダ車も同16.5%増加と4ヶ月連続の前年越えとなった。

欧州の6月の全需は1,486千台で、前年同月比2.9%増加。マツダ車も同13.3%増加と好調で14ヶ月連続の前年越えとなった。

中国の6月の全需は1,908千台で、前年同月比8.8%増加。マツダ車の販売は37.2%増加と4ヶ月連続の前年越えとなった。

上記各地域の状況下、マツダ車の6月の海外販売合計台数は97千台、前年同月比12.8%で12ヶ月連続の前年越えとなった。

マツダは欧州向けの輸出台数が大幅に増加し、輸出全体では20.0%増加と2ヶ月振りの前年越えとなった。

マツダの6月の国内生産台数は、前年同月比6.7%増加となり、3ヶ月振りに月産8万台超えとなった。

（その他）

●家具・装備品

広島家具工業協同組合

7月の受注は前年同月比90%前後で推移した。やや持ち直したものの引き続き厳しい状況である。売上についてはほぼ計画通りであるが、8月以降売上、受注とも苦戦が予測される。

今年度、学習機の店頭での展開が昨年より1ヶ月早い8月末から始まるため、学習機を製造している3組合員においては、生産スケジュールがタイトのようである。

（卸売業）

●卸売業（総合）

協同組合広島総合卸センター

ガソリンの高騰、運送費の値上げ、その他経費も値上げしている中、人件費も上昇してきており、全般的にコストアップとなるため収支に与える影響は大きい。

「資材関連」においては、電気工事業は多忙で人手不足の感があり、今後は官庁物件の受注が増加する見込みである。

「食品」においては、売上は概ね前年並みを維持している。

「繊維」においては、7月中旬以降の気温上昇から、夏物商品の販売が好転しているが、7月トータルでは苦戦し、売上は前年割れとなっている。台風・豪雨の影響で販売先小売店の売上は減少している。

「雑貨」においては、特段変化はない。医薬品卸は医療点数減やジェネリック医薬品の普及もあり、対前年比大幅ダウンとなっている。

●卸売業（電設資材）

広島県電設資材卸業協同組合

電気工事業は多忙で、人手不足の状況である。今後、官庁件名の発注が予測され、業界的には9月以降の上昇が期待される。一方で、新築住宅市場は消費税増税に伴う反動減により、前年同月比4月91.8%、5月72.2%となっており、8月、9月は厳しい状況が予想される。（電設資材関係の商品が納入されるのが住宅着工月より4ヶ月前後であるため）

●卸売業（家具）

リビズ株式会社

3月までの消費税増税前の駆け込み需要での反動減がようやく落ち着いてきた。

●卸売業（畳・敷物）

広島県藁製品商業協同組合

7月は天候異変から畳表の売れ行きは全般的に低調であった。畳表の価格は国産、中国産共に高値横ばいの状況である。

国内産地では、7月中にはい草の収穫を終えている状況である。一方、中国産では6月中旬・下旬には収穫は終えている。

国産い草は、今年、実入りが良く、上質な畳表が縫製できる予定である。中国産でも、い草の生育は良好で、一部減産もあったが、畳は平年よりやや不足することから、価格は高値横ばいで推移するものと見ている。

本年度、収穫のい草を使った畳表が市場に出回るのは9月～10月頃と想定している。全般的に国産畳表の需要が増大傾向にある。

（小売業）

●各種商品小売業

チューリップチェーン商業協同組合

今月の売上は前年、前月と比べて大幅に減少した。これは店売りと外売りの両方の売上が減少したことによるものである。大きな要因は主力商品である野菜の相場安による影響が大きいと考えられる。梅雨時6月の天気が良く雨量も例年の半分程度であったため、野菜の生育が良く、豊作で供給増となり、相場が低迷したことが要因である。また、世間では景気が回復したかのように言われているが、中元商戦についても販売の方は年々減少しているのが実情である。

さらに、今年の梅雨明けはほぼ平年並みであったが、昨年より12日遅かったことで、飲料やアイスの売上は昨年より減少している。

●各種商品小売業

協同組合三次ショッピングセンター

昨年より僅かに売上が減少したが、7月は地域の祭りとは花火大会があり、ほぼ前年に近い売上であった。7月にテナントであった総菜店が閉店した。

●家庭用電気機械器具小売

広島県電器商業組合

7月度の販売実績は前年同月比7.6%減少となった。商品別では、薄型テレビ前年同月比8.9%減少、BDレコーダー同18.5%減少、音響・車載機器同20.2%減少、冷蔵庫同7.5%減少、洗濯機同4.6%減少、エアコン同1.2%減少、エコキュート同9.0%減少、IHクッキングヒーター同5.8%減少となった。全商品とも前月より下降しており、夏物のエアコン、冷蔵庫が伸び悩んでいる。

(商店街)

●商店街（各種商品小売業）

呉本通商店街振興組合

恒例の土曜夜市が第3、第4土曜日に開催され、多くの人出が見られた。小売業の不振のせいか、廃業等により空き店舗が20店舗余りある。暑さのせいか、昼間の来街者が少ない。

(サービス業)

●自動車整備業

広島市自動車整備団地協同組合

車検台数は前月比10.4%減少、前年同月比2.6%減少。車検場収入は前月比13.1%減少、前年同月比3.3%減少。重量税・登録印紙の売上は前月比10.9%減少、前年同月比9.0%減少となっている。

●広告業

広島県広告美術協同組合連合会

少数の企業でロゴマーク等の変更の動きはあるものの、全体として低調である。広告費を増やす企業は少ない。

●情報サービス

(社) 広島県情報産業協会

売上及び収益状況は前月比横ばいである。
JAVAの技術者不足が依然続いている。

(建設業)

●工事業

福山地区電気工事業協同組合

6月における工事受注件数は前月比1.2%増加、前年同月比10%減少となった。

●工事業

広島県室内装飾事業協同組合

7月の売上について前月比12%増加、前年同月比15%増加となっており、累計でも前年比でも8%増加と売上は順調である。

前月比で見るとカーテン工事は18%増加、敷物28%減少、壁装工事11%増加となっており、敷物が低調であった。

前年同月比ではカーテン工事は11%減少と落ち込んだものの、敷物29%増加、壁装工事54%増加と大幅な伸びとなった。消費税増税の影響は現状ではあまり出ていない。

工事物件はあるものの、内装業界においても今後特に若い技能士不足等、人手不足が大いに懸念され、高齢化と後継者不足は深刻な問題である。

●工事業

神辺建設業協同組合

建設資材の公共単価がやや実勢価格に近づいた感もあり、発注価格はやや好転している。引き続き適正価格での発注が望まれる。

(運輸業)

●道路貨物運送業

広島県ロジネット協同組合

7月の荷動きは、前年に比べ、引き続き良かった。特に飲料関連は堅調な動きを見せた。先月に引き続き車両の量も少ない。運転手不足が大きな要因となっているようである。また、軽油価格の値上げ傾向は変わらない。週単位で変動する価格にフリート各社も頭を抱えている。平成25年度の決算においてメーカー各社が赤字で推移したことを考えると、値下げを期待するのはかなり厳しいようである。

●道路貨物運送業

松永地区トラック事業協同組合

7月は例年、中元と引越関係で忙しいが、今年は昨年に比べて貨物量が減少し、休車が目立っている。6月同様、車両の稼働率は昨年を下回る状況であった。

消費税増税により、取扱貨物が全般的に下落し、燃料の高騰は厳しく、高速道路料金も実質値上げされた状況で、大口多頻度割引の割引率はアップしているが、それ以上に値上がりしているため、高速道路利用を控える事業者が増えているのが現状である。

●道路貨物運送業

広島輸送ターミナル協同組合

燃料価格の上昇が収益を圧迫している。運賃の上昇が追いついていない。

●水運業

全国内航タンカー海運組合中国支部

燃料の高騰により燃料費のコストアップが続いている。船員の高齢化が進み船員不足であるが、若年船員が育たない。運賃、用船料の改善も見られない。

(その他)

●不動産業

広島県不動産評価システム協同組合

前年比においては、6～7月にかけて地価調査等の公的評価の仕事が忙しく、一般鑑定評価件数が減ったため、売上高等収益状況が悪化している。前年同月比については特に変化はない。

不動産市況については、市内中心部商業地、広島駅南口、北口周辺地域の地価が上昇している。